

シンポジウム登壇者のご紹介

【コーディネータ】

○石神 隆 氏 (法政大学名誉教授)

関心領域は、サステイナブルな地域づくり、地域産業経済、都市と水の関係史など。飯田市においては、飯田市第4次基本構想基本計画（1996年度～）の策定や、この度の「いいだ未来デザイン2028」の策定で未来デザイン会議（飯田市基本構想審議会）専門委員を務められるなど、当地域のまちづくりに様々な角度から提言等いただいている。学輪 IIDA のメンバーであり、長年にわたり「南信州・飯田フィールドスタディ」へ学生達とともに参加されてきた。

【パネリスト】

○渡邊 信彦 氏 事業構想大学院大学 教授

大手SIerにて金融機関のデジタル戦略を担当、2006年執行役員、オープンイノベーション研究所所長を歴任。その後Psychic VR Lab 設立。他に事業構想大学院大学 教授、北海道共創パートナーズ Executive Advisor、先端技術オープンラボ Spiral Mind パートナー、大阪商工会議所 XR 推進フォーラム アドバイザーなどを務める。飯田市とは5年前より起業家育成やハジメマシテ飯田の運営をサポート。

○大杉 寛 氏 東京都立大学法学部 教授

1964年横浜市生まれ。東京大学大学院博士課程修了（博士（学術））。成城大学法学部専任講師、東京都立大学法学部助教授を経て現職。世田谷区せたがや自治政策研究所所長、総務省地域づくり人材の育成に関する調査研究会座長など国・自治体の役職を歴任。専門分野は、行政学、地方自治論。著書に『これからの地方自治の教科書』（共著・第一法規）ほか。学輪 IIDA のフィールドスタディに学生達とともに参加されている。

○高柳 俊男 氏 法政大学国際文化学部 教授

法政大学国際文化学部教授。専門は朝鮮半島の近現代史で、海峡を越えた人の移動や相互認識、在日コリアンの歴史・文化を中心に研究。当地との関係は、飯田・下伊那で留学生対象の国内研修の実施が決まり、その担当者を拝命することから始まった。以来約10年、なるべく電車・バス・自転車・徒歩で現地を実際に見て、関係者と交流することをモットーに、自ら楽しみながら任に当たっている。当地域においては、ムトス飯田推進委員会コーディネート専門委員、三遠南信地域連携ビジョン策定委員を務められている。

○阿部 治 氏 立教大学ESD研究所長、同大社会学部 教授

ESD-J代表理事、日本環境教育フォーラム専務理事など併任。専門は環境教育、ESD（持続可能な開発のための教育）。現在、飯田市をはじめとした全国の自治体と連携してESDによる人づくりを通じた持続可能な地域創生やSDGsの推進等に従事。日本環境教育学会会長、ESD活動支援センター長など歴任。TEMM ENVIRONMENT AWARD や日本自然保護大賞沼田眞賞などを受賞。当地域の遠山郷において、特徴ある教育の取組にESDの視点からご助言をいただいている。

○中田 めぐみ 氏 農山漁村文化協会（農文協）

飯田市出身。いいだ未来デザイン会議委員。郷土料理などの関心から「日本の食生活全集」の出版元である農文協に入会。農家への営業、食育イベント・映像制作を担当。食の雑誌「うかたま」創刊から編集に関わり、2008年から2017年まで編集長を務める。現在は昭和の家庭料理を調査した「伝え継ぐ 日本の家庭料理」や学校図書の編集。農水省「地域の食文化の保護・継承事業」全国検討委員。

○竹内 文人 氏 しんきん南信州地域研究所 主席研究員

飯田市知久町出身（現住所は飯田市松尾）、飯田高等学校卒業（1999年）、静岡大学卒業（2003年）、飯田信用金庫入庫（2003年）、中小企業診断士登録（2009年）、融資部企業支援室（2011年～2016年）、営業店勤務の後、2019年より現職（地域サポート部地域サポート課と兼務）